

交通・物流/自動車特集の発刊に際して

取締役 常務執行役員 鯨井 洋一
機械・鉄構事業本部長 Yoichi Kujirai



交通・物流/自動車特集の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当社は創業事業である造船からスタートして以来、陸・海・空にわたる交通・物流製品を主力事業ドメインとして取り組んできましたが、お客様の幅広いニーズにお応えしながら、陸上、海上、航空、さらには海中、地中、宇宙など、様々な空間へのアクセス技術・製品を提供して参りました。これらの分野の共通課題として、近年は地球温暖化防止や有害な排出ガスの削減・抑制による環境保全とサステナビリティが取り上げられており、省エネ性能や環境対応技術の優劣、トータルシステムとしての効率性がお客様の事業に及ぼす影響度が非常に高くなってきました。近年注目を浴びているスマートコミュニティについても、当社のエネルギー・環境ドメインとの連携、シーズにより、都市を中心とした社会インフラを形成する交通、物流、電力供給、水・大気などの環境保全設備を有機的に統合した提案を、我が国のみならず新興国、先進国で実証に移しております。単体製品や個別技術だけに特化せず、幅広い技術シーズと製品展開、システム構築に取り組んできた当社にとって、まさに製品を通じてお客様や社会に貢献させていただける時代が巡ってきたものと考えます。

今回は、地球環境への貢献として省エネ、環境保全などの技術の高度化、さらには技術のシステム化、統合化をキーワードとして、当社の事業分野の中でも社会インフラの基盤となる陸上交通、陸上物流、自動車関連分野を特集しました。

豊かで安全な社会生活を支える陸上交通においては、長距離・大量輸送を支える軌道系交通システム技術として、無人化や自動化の観点から、世界最長の全自動無人運転を実現したドバイメトロと新幹線の保全自動化に貢献する保全専用車両についてご紹介します。併せて、軌道系交通の統合制御技術である統合SCADA、道路交通における自動車通信・料金收受へのGPS応用技術、さらには地球に優しい環境技術であるオイルレスの鉄道ブレーキ製品、欧州環境規制に適合した乗用車用ターボチャージャーについて取り上げています。また、CO₂の排出抑制と省エネの観点から、電力消費と待ち時間をそれぞれ 30%短縮した立体駐車場であるスマートリフトパークと低い外気温でも高い性能を発揮する保冷車用ヒートポンプ式冷凍機、電気駆動の最新型バッテリーフォークリフトについても提示します。

一方では、昨年の震災を受けて、先進技術による社会インフラの損傷防止と災害リスク低減に関する取組みとして、既設の橋型クレーンへの免振装置の追設についてご紹介致します。

当社は、高い信頼性と、安全・快適で低環境負荷の交通・物流技術をグローバルに展開しながら、お客様の幅広いニーズに応え、安定した交通インフラ、社会インフラのネットワークを形成するお役に立つよう、当社グループ会社も含めた三菱重工グループとして努力を続けて参る所存ですので、一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。